

**【表紙】**

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2020年2月10日
【四半期会計期間】	第9期第3四半期（自 2019年10月1日 至 2019年12月31日）
【会社名】	株式会社ジーテクト
【英訳名】	G-TEKT CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 社長執行役員 高尾 直宏
【本店の所在の場所】	埼玉県さいたま市大宮区桜木町一丁目11番地20
【電話番号】	048-646-3400(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役 常務執行役員 吉沢 勲
【最寄りの連絡場所】	埼玉県さいたま市大宮区桜木町一丁目11番地20
【電話番号】	048-646-3400(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役 常務執行役員 吉沢 勲
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第8期 第3四半期 連結累計期間	第9期 第3四半期 連結累計期間	第8期
会計期間	自 2018年4月1日 至 2018年12月31日	自 2019年4月1日 至 2019年12月31日	自 2018年4月1日 至 2019年3月31日
売上高 (百万円)	188,256	176,294	255,637
経常利益 (百万円)	12,258	7,835	17,423
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	8,015	4,999	10,470
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	5,453	4,434	6,192
純資産額 (百万円)	132,746	138,344	133,480
総資産額 (百万円)	223,156	231,881	225,296
1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	185.75	116.60	243.11
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	53.7	54.5	53.9

回次	第8期 第3四半期 連結会計期間	第9期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 2018年10月1日 至 2018年12月31日	自 2019年10月1日 至 2019年12月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	88.85	41.20

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
3. 純資産額には、当社役員への業績連動型株式報酬として信託が保有する当社株式が自己株式として計上されております。また、同期間の1株当たり四半期(当期)純利益の算定上の基礎となる普通株式の期中平均株式数は、当該株式を控除対象の自己株式に含めて算出しております。
4. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

## 2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間の業績については、新規受注の拡大がありました。得意先の生産台数の減少や機種構成差により量産売上が減少したことに加え、型設備売上の減少等により、売上高は176,294百万円（前年同期比6.4%減）となりました。利益につきましては、減産及び型設備売上の減少の影響等により、営業利益は7,472百万円（前年同期比38.3%減）となりました。経常利益は、7,835百万円（前年同期比36.1%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は、4,999百万円（前年同期比37.6%減）となりました。

報告セグメントごとの業績は次のとおりであります。

日本

（単位：百万円）

	前第3四半期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	前期比増減額	前期比増減率
売上高	44,876	39,398	5,478	12.2%
営業利益	1,626	162	1,463	90.0%

売上高は、新型車種の量産開始の遅れや型設備売上の減少等により、39,398百万円（前年同期比12.2%減）となりました。営業利益は、162百万円（前年同期比90.0%減）となりました。

北米

（単位：百万円）

	前第3四半期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	前期比増減額	前期比増減率
売上高	66,922	61,069	5,852	8.7%
営業利益	1,297	1,071	2,369	-

売上高は、セダン系車種の不振や型設備売上の減少等により、61,069百万円（前年同期比8.7%減）となりました。営業利益は、製造原価が高止まっていることに加え、型設備売上の減少の影響等により、1,071百万円（前年同期は1,297百万円の利益）となりました。

欧州

（単位：百万円）

	前第3四半期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	前期比増減額	前期比増減率
売上高	14,024	15,237	1,213	8.7%
営業利益	1,636	2,240	603	36.9%

売上高は、新規受注の生産が拡大し、量産売上が増加したこと等により、15,237百万円（前年同期比8.7%増）となりました。営業利益は、増収効果等により、2,240百万円（前年同期比36.9%増）となりました。

アジア

(単位：百万円)

	前第3四半期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	前期比増減額	前期比増減率
売上高	30,712	26,165	4,546	14.8%
営業利益	3,609	1,878	1,730	47.9%

売上高は、新規受注が拡大した一方、自動車販売の悪化による量産売上の減少等により、26,165百万円（前年同期比14.8%減）となりました。営業利益は、量産売上の減少の影響等により、1,878百万円（前年同期比47.9%減）となりました。

中国

(単位：百万円)

	前第3四半期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	前期比増減額	前期比増減率
売上高	35,856	38,126	2,270	6.3%
営業利益	3,759	4,293	534	14.2%

売上高は、量産売上の増加等により、38,126百万円（前年同期比6.3%増）となりました。営業利益は、増収効果等により、4,293百万円（前年同期比14.2%増）となりました。

南米

(単位：百万円)

	前第3四半期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	前期比増減額	前期比増減率
売上高	5,531	6,411	879	15.9%
営業利益	281	211	69	24.8%

売上高は、新規受注拡大による量産売上及び型設備売上の増加等により、6,411百万円（前年同期比15.9%増）となりました。営業利益は、労務関連費用の増加等により、211百万円（前年同期比24.8%減）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末より6,585百万円増加し、231,881百万円となりました。これは主に、建物及び構築物、機械装置及び運搬具の増加によるものであります。

負債合計は、前連結会計年度末より1,721百万円増加し、93,537百万円となりました。これは主に、長期借入金の増加によるものであります。

純資産合計は、前連結会計年度末より4,864百万円増加し、138,344百万円となりました。これは主に、利益剰余金の増加によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間における研究開発費の総額は、760百万円であります。

(5) 資本の財源及び資金の流動性

当第3四半期連結会計期間において、資本の財源及び資金の流動性について重要な変更はありません。

### 3【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	100,000,000
計	100,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2019年12月31日)	提出日現在発行数 (株) (2020年2月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	43,931,260	43,931,260	東京証券取引所 (市場第一部)	1単元(100株)
計	43,931,260	43,931,260	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2019年12月31日	-	43,931,260	-	4,656	-	23,333

##### (5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2019年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等) (注)1	(自己保有株式) 普通株式 1,000,100	4,551	1单元(100株)
完全議決権株式(その他) (注)2	普通株式 42,920,300	429,203	同上
単元未満株式	普通株式 10,860	-	1单元(100株)未満の株式
発行済株式総数	43,931,260	-	-
総株主の議決権	-	433,754	-

(注) 1. 当社所有の自己株式545,000株及び日本トラスティ・サービス信託銀行(信託口)が所有する455,100株が含まれています。

2. 「完全議決権株式(その他)」の株式数の欄には、証券保管振替機構名義の株式が2,800株(議決権の数28個)含まれております。

【自己株式等】

2019年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社ジーテクト	埼玉県さいたま市大宮区 桜木町一丁目11番地20	545,000	455,100	1,000,100	2.28
計	-	545,000	455,100	1,000,100	2.28

(注) 他人名義所有株式については、当社役員への業績連動型株式報酬として日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)(中央区晴海1丁目8番11号)が取得したものです。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。



## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2019年10月1日から2019年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	24,147	26,684
受取手形及び売掛金	33,976	27,727
製品	1,302	1,315
仕掛品	14,239	20,091
原材料	2,484	2,651
貯蔵品	1,050	1,102
その他	5,533	5,292
流動資産合計	82,734	84,863
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	46,727	50,449
機械装置及び運搬具(純額)	33,717	36,587
工具、器具及び備品(純額)	18,445	16,707
土地	<sup>1</sup> 12,057	<sup>1</sup> 12,109
建設仮勘定	17,930	17,811
有形固定資産合計	128,878	133,666
無形固定資産	2,610	2,611
投資その他の資産		
投資有価証券	7,262	7,470
その他	<sup>2</sup> 3,810	<sup>2</sup> 3,269
投資その他の資産合計	11,073	10,739
固定資産合計	142,561	147,018
資産合計	225,296	231,881
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	22,691	19,553
短期借入金	20,730	19,647
1年内返済予定の長期借入金	6,028	7,715
未払金	8,716	6,688
未払法人税等	884	1,407
賞与引当金	1,124	556
その他	5,854	6,447
流動負債合計	66,030	62,016
固定負債		
長期借入金	18,542	24,298
退職給付に係る負債	1,558	1,758
役員株式給付引当金	407	295
その他	5,276	5,168
固定負債合計	25,785	31,521
負債合計	91,816	93,537

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	4,656	4,656
資本剰余金	23,657	23,657
利益剰余金	87,616	91,798
自己株式	1,943	1,772
株主資本合計	113,987	118,340
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	851	941
為替換算調整勘定	6,790	7,224
退職給付に係る調整累計額	113	87
その他の包括利益累計額合計	7,528	8,079
非支配株主持分	11,964	11,924
純資産合計	133,480	138,344
負債純資産合計	225,296	231,881

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
売上高	188,256	176,294
売上原価	165,305	158,616
売上総利益	22,950	17,678
販売費及び一般管理費	10,833	10,206
営業利益	12,117	7,472
営業外収益		
受取利息	229	368
受取配当金	100	113
持分法による投資利益	-	114
助成金収入	157	180
その他	299	285
営業外収益合計	787	1,062
営業外費用		
支払利息	544	447
為替差損	3	134
持分法による投資損失	62	-
その他	36	117
営業外費用合計	646	699
経常利益	12,258	7,835
特別利益		
固定資産売却益	23	22
特別利益合計	23	22
特別損失		
固定資産売却損	1	1
特別損失合計	1	1
税金等調整前四半期純利益	12,280	7,856
法人税等	3,712	3,054
四半期純利益	8,568	4,802
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失( )	553	196
親会社株主に帰属する四半期純利益	8,015	4,999

【四半期連結包括利益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益	8,568	4,802
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	666	89
繰延ヘッジ損益	62	-
為替換算調整勘定	2,354	436
退職給付に係る調整額	9	26
持分法適用会社に対する持分相当額	40	47
その他の包括利益合計	3,114	368
四半期包括利益	5,453	4,434
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,674	4,395
非支配株主に係る四半期包括利益	779	38

【注記事項】

( 継続企業の前提に関する事項 )

該当事項はありません。

( 連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更 )

当第3四半期連結累計期間  
( 自 2019年4月1日 至 2019年12月31日 )

( 連結子会社の事業年度等に関する事項の変更 )

従来、連結子会社の四半期会計期間の末日と四半期連結決算日との間に3か月を超えない差異がある場合において、当該連結子会社の当該四半期会計期間に係る四半期財務諸表を基礎として当該期間に対応する四半期連結財務諸表を作成し、当該四半期連結決算日との間に生じた重要な取引については必要な調整を行っていましたが、より適切な経営情報の把握及び四半期連結財務諸表の開示を行うため、第1四半期連結会計期間より、四半期連結決算日に仮決算を行う方法に変更しております。

この変更に伴い、当第3四半期連結累計期間は、2019年4月1日から2019年12月31日までの9か月間を連結しております。

なお、当該連結子会社の2019年1月1日から2019年3月31日までの損益については、利益剰余金の増減として調整しております。

( 会計方針の変更等 )

当第3四半期連結累計期間  
( 自 2019年4月1日 至 2019年12月31日 )

( IFRS16号リースの適用 )

当社グループは、第1四半期連結会計期間の期首より、日本基準を採用する当社及び米国基準を適用する子会社を除き、IFRS第16号「リース」を適用しております。これにより、リースの借手は原則としてすべてのリースを貸借対照表に資産及び負債として計上することとしました。

なお、本基準の適用による当社グループの財政状態及び経営成績に与える影響は軽微であります。

( 四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理 )

当第3四半期連結累計期間  
( 自 2019年4月1日 至 2019年12月31日 )

( 税金費用の計算 )

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

( 追加情報 )

当第3四半期連結累計期間  
( 自 2019年4月1日 至 2019年12月31日 )

( 業績連動型株式報酬制度 )

当社は、取締役(社外取締役を除く。)ならびに当社と委任契約を締結している執行役員(以下「取締役等」という。)に信託を通じて自社の株式を交付する取引を行っております。

(1) 取引の概要

当社は、取締役等を対象に、これまで以上に当社の中長期的な業績の向上と企業価値の増大への貢献意欲を高めることを目的とし、当社の株式価値との連動性が高い役員報酬制度として、業績連動型株式報酬制度(以下「本制度」という。)を導入しております。

本制度は、2016年3月末日で終了する連結会計年度から2021年3月末日で終了する連結会計年度までの期間において在任する取締役等に対する報酬として、当社が金員を拠出して設定した信託が取引所市場を通じて当社株式を取得のうえ、当該株式を一定の要件を満たす取締役に対し、その役位、業績等に応じて交付する株式報酬制度です。

(2) 信託に残存する自社の株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額(付随費用の金額を除く。)により、純資産の部に自己株式として計上しております。当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、前連結会計年度935百万円、574千株、当第3四半期連結会計期間765百万円、455千株であります。

( 四半期連結貸借対照表関係 )

1 . 圧縮記帳額

国庫補助金等により有形固定資産の取得価額から控除している圧縮記帳額及びその内訳は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 ( 2019年 3月31日 )	当第 3 四半期連結会計期間 ( 2019年12月31日 )
圧縮記帳額	149百万円	149百万円
(うち、土地)	149百万円	149百万円

2 . 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額

	前連結会計年度 ( 2019年 3月31日 )	当第 3 四半期連結会計期間 ( 2019年12月31日 )
投資その他の資産	10百万円	8百万円

( 四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係 )

当第 3 四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第 3 四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第 3 四半期連結累計期間 ( 自 2018年 4月 1日 至 2018年12月31日 )	当第 3 四半期連結累計期間 ( 自 2019年 4月 1日 至 2019年12月31日 )
減価償却費	15,869百万円	15,343百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年6月22日 定時株主総会	普通株式	877	20	2018年3月31日	2018年6月25日	利益剰余金
2018年11月9日 取締役会	普通株式	954	22	2018年9月30日	2018年12月3日	利益剰余金

(注) 1. 2018年6月22日定時株主総会決議による配当金の総額には、信託が保有する自社の株式に対する配当金4百万円が含まれております。

2. 2018年11月9日取締役会決議による配当金の総額には、信託が保有する自社の株式に対する配当金12百万円が含まれております。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

当社は、2018年5月22日開催の取締役会決議に基づき、自己株式500,000株の取得を行いました。また、2018年8月9日開催の取締役会決議に基づき、業績連動型株式報酬制度の追加信託として、信託名義で360,000株を取得し、自己株式として計上しました。この結果、当第3四半期連結累計期間において自己株式が1,636百万円増加し、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が1,943百万円となっております。

当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月21日 定時株主総会	普通株式	1,041	24	2019年3月31日	2019年6月24日	利益剰余金
2019年11月8日 取締役会	普通株式	1,041	24	2019年9月30日	2019年12月2日	利益剰余金

(注) 1. 2019年6月21日定時株主総会決議による配当金の総額には、信託が保有する自社の株式に対する配当金13百万円が含まれております。

2. 2019年11月8日取締役会決議による配当金の総額には、信託が保有する自社の株式に対する配当金10百万円が含まれております。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。



(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント						合計
	日本	北米	欧州	アジア	中国	南米	
売上高							
外部顧客への売上高	36,965	66,463	13,765	30,615	34,913	5,531	188,256
セグメント間の内部売上高又は振替高	7,911	458	258	96	942	0	9,667
計	44,876	66,922	14,024	30,712	35,856	5,531	197,923
セグメント利益	1,626	1,297	1,636	3,609	3,759	281	12,211

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位: 百万円)

利益	金額
報告セグメント計	12,211
セグメント間取引消去等	93
四半期連結損益計算書の営業利益	12,117

当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント						合計
	日本	北米	欧州	アジア	中国	南米	
売上高							
外部顧客への売上高	31,854	60,656	15,004	26,130	36,237	6,411	176,294
セグメント間の内部売上高又は振替高	7,544	412	233	35	1,889	-	10,115
計	39,398	61,069	15,237	26,165	38,126	6,411	186,409
セグメント利益又は損失( )	162	1,071	2,240	1,878	4,293	211	7,715

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位: 百万円)

利益	金額
報告セグメント計	7,715
セグメント間取引消去等	243
四半期連結損益計算書の営業利益	7,472

( 1 株当たり情報 )

1 株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

前第 3 四半期連結累計期間 (自 2018年 4 月 1 日 至 2018年12月31日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 2019年 4 月 1 日 至 2019年12月31日)
1 株当たり四半期純利益 185.75円	1 株当たり四半期純利益 116.60円

項目	前第 3 四半期連結累計期間 (自 2018年 4 月 1 日 至 2018年12月31日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 2019年 4 月 1 日 至 2019年12月31日)
親会社株主に帰属する四半期純利益 (百万円)	8,015	4,999
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益 (百万円)	8,015	4,999
期中平均株式数 (株)	43,152,007	42,875,254

(注) 1. 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 株主資本において自己株式として計上されている信託に残存する自社の株式は、1 株当たり四半期純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

1 株当たり四半期純利益の算定上、控除した当該自己株式の期中平均株式数は前第 3 四半期連結累計期間 371,746株、当第 3 四半期連結累計期間511,101株であります。

( 重要な後発事象 )

該当事項はありません。

2 【その他】

第 9 期 (2019年 4 月 1 日から2020年 3 月31日まで) 中間配当について、2019年11月 8 日開催の取締役会において、2019年 9 月30日の最終の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	1,041百万円
1 株当たりの金額	24円00銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	2019年12月 2 日

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年2月10日

株式会社ジーテクト

取締役会 御中

### 有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士

白田 英生

印

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士

吉原 一貴

印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ジーテクトの2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(2019年10月1日から2019年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ジーテクト及び連結子会社の2019年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。